

令和6年度 第2回さいたま市博物館協議会 会議録

開催日時 令和7年3月12日(水)午後2時から午後4時

開催場所 さいたま市立博物館 講座室

出席者名 委員 : 江里口友子委員長、新美和子副委員長、神田真仁委員、小宮るり子委員、杉山正司委員、千葉諭美委員、初音みね子委員、坂野千登勢委員、広田由子委員、松岡聖子委員、宮瀧交二委員、亘理隆委員、伊藤さおり委員

(欠席: 橋本正晴委員、倉林弥生委員)

事務局 : 博物館長、博物館長補佐兼事業係長、博物館長補佐兼管理係長、同事業係主査、同事業係主事、浦和博物館主査、浦和くらしの博物館民家園主査、旧坂東家住宅見沼くらしっく館主査、与野郷土資料館主査

傍聴人 なし

さいたま市博物館条例第14条に基づき、令和6年度第2回さいたま市博物館協議会を開催しました。

会議名 令和6年度第2回さいたま市博物館協議会

博物館館長補佐兼管理係長の司会により開会し、博物館長のあいさつに続き、さいたま市博物館協議会規則に基づき、委員長が議長になり議事に移りました。

議 事

議 長 それでは議事に入ります。まず令和7年度の事業予定についてすでに目を通していると思いますので意見や質問がありましたらお願いします。宮瀧委員お願いします。

宮瀧委員 中身に入る前に教えていただきたいことがあります。第1回の協議会でお話が出ていたのかもしれませんが、各館の学芸員もしくは学芸担当の職員数を教えてください。本日頂いた名簿の事務局のみなさんの肩書が職位の後に兼岩槻郷土資料館のような、兼館名というのはさいたま市の正式な表記なのでしょうか。兼岩槻郷土資料館学芸員のような、そういったものはないのでしょうか。この表記が変わっているので、これでさいたま市としてやっているのか教えてください。どれくらいの体制で各事業を行っているのか知りたいです。

事務局 市立博物館が5人、浦和博物館が2人、浦和くらしの博物館民家園が2人、

旧坂東家住宅見沼くらしっく館が2人、岩槻郷土資料館、与野郷土資料館には学芸員はいません。

宮瀧委員 それぞれ皆さんは学芸員発令はされていますか。

事務局 今申し上げた学芸員は学芸員発令がされています。

宮瀧委員 今の事務局の名簿の肩書はどういった肩書ですか。

事務局 これは辞令通りの肩書です。

宮瀧委員 主査兼浦和くらしの博物館民家園と書かれている功刀さんは、学芸員ではないということですか。

事務局 いえ、学芸員です。この肩書に加えて学芸員を命ずるというものが付帯的についています。

宮瀧委員 それはなぜこの名簿に書かないのでしょうか。

事務局 そうですね。書いたほうが分かりやすいですね。

宮瀧委員 これは博物館協議会ですから、しっかり書いていただかないと学芸係長がいるのか、学芸部長がいるのか、など事業を協議するうえで、そういった体制があるのかどうかが大それたと思いますので、分かるような表記をしていただきたいです。

事務局 次回からそのような名簿を作ります。

宮瀧委員 先ほどのお話を確認すると、分館の岩槻郷土資料館と与野郷土資料館には学芸員がいないけれど、その他の館は2人、市立博物館には5人いるという理解でよろしいですね。

事務局 はい、その通りです。

議長 坂野委員お願いします。

坂野委員 資料の6ページにある昔遊び体験「ちょこよの」とはどういった事業ですか。

事務局 現在、地域サロンから小学生が昔遊びの道具で自由に遊べるようにしています。来年度からは鐘を鳴らしたり、拍子木を打ったりして声をかけ、紙芝居や読み聞かせの機会を作って、館に入ってもらい、さらに興味関心をもってもらおうという新しい試みです。

議長 神田委員お願いします。

神田委員 ここで聞くのが正しいのか分からないのですが、まず前回の協議会では、課題の進捗状況を回答していただいたと思います。今回はそういったものがないのですが、なぜなのか教えてください。事務局も忙しい中だとは思いますが、最初にここに来た時に質問したホームページの改修の件も対応するという回答からどう進んだのか、市と一緒に対応していくということだったと思いますが、いつできそうなのか、きちんと進んでいるのか、それも見えないので、裏で動いていても、表に見えなければ、動いていないと捉え

られてしまうので勿体ないと思いました。続けて事業予定にある平日開催の講座や、予定が合わなくて参加できない講座の中でも興味深い講座があるのですが、動画撮影してオンライン公開することは考えていますか。

議長 事務局お願いします。

事務局 前回からの課題については、別途まとめて報告いたします。継続中の課題のうち、ホームページについては、現在、予算当局と話をしています。前回の協議会の後から令和7年度より始めたいと話をしていましたが、諸事情あり1年ほどずれ込む見通しです。

議長 続けて事務局お願いします。

事務局 講座に関する動画収録と配信の件ですが、コロナ禍の時に何回か試みたものがあります。その後は止まってしまっている状況です。この件の課題としては収録と編集の環境が整っていないことが挙げられます。またコロナ禍の際は会場には講師の先生のみだったので、参加者の声や影が映る心配をする必要がなかったのですが、会場で話しているところを収録するとなるとプライバシーへの配慮を考えたときに、消音やモザイクを入れるなどの編集が今の環境では難しいというのが現状です。それらを含めてどうするのか、方法を考えることに加えて、追加で必要な機材があれば購入しなければならないので、どんなものがいいのか検討を進めている段階です。どこまで実現可能なのか目途が立っていません。

広田委員 今の話に関連することですが、課題の進捗状況は紙ベースで準備してもらおうと、前回までの流れが読み取りやすいと思います。1から作るのではなく、前回の資料を基にして簡易な形であっても流れが分かるとよいと思います。電子媒体の著作権等の整備が必要だと前々回くらいから話があったと思いますが、今の人たちにとっては動画はとても身近な物だと思うので、事務局も敷居を高く構えずに開館前の5分ほどを使って撮影するなどやり方はあるのかなと思いました。加えて博物館の入館者数で2桁以上の割合で減少している館が何館か見受けられますが、各館思い当たる要因はあるのでしょうか。

議長 事務局お願いします。

事務局 市立博物館に関して申し上げますと館長による冒頭の挨拶にもあった通り、10月から11月にかけて行った「さいたまと近世の天文－稲垣田龍が見た夜空－」においては、昨年度に行った「さいたまの埴輪」がやはり人気のあるテーマだったので、それと比べると約1,000人ほど少ない入館者数でした。それが大きく影響していると考えています。10月初頭は雨の日が多かったことも入館者数が伸び悩んだ一因だと思っています。また7月も約900人落ち込んでいますが、こちらは猛暑の影響だと考えられます。暑い日が続い

て8月いっぱい例年より少なく推移しました。3月で少し挽回できるかと思っていますが、昨年度の入館者数には届くかどうか微妙なところです。

宮瀧委員 入館者数もちろん分かりやすいので、大きな目安になって様々な場面で説明しやすいと思いますが、他の博物館では入館者数だけでなく、アウトソーシングという風に言いますが、小学校での出前授業、学芸担当の職員が外に出向いて講演や、講座を開催するという大事な役割もあります。そして何ととってもレファレンスサービスだと思います。電話や窓口でのお問い合わせで、夏休みになると子どもたちから宿題の問い合わせもあると思います。そういったものも全て含めて博物館の業務として公開する、というのが主流になってきています。入館者数は事務局が言った通り、天候に左右されますし、空調設備の事情も相まって毎年アップダウンするものだと思います。博物館だけでなく、図書館でもレファレンスに力を入れています。博物館活動の他の面もトータルでカウントすると説明しやすいと思います。そのあたりはいかがでしょうか。

事務局 さいたま市博物館年報でそのあたりの全容について案内をしています。冊子の他にホームページ上で PDF 形式でも公開しています。年報には外部へ出向いて開催した講座のほかに、学校へ一定期間博物館資料を貸し出す学校巡回展等も含めて何件行っているのか掲載しています。今回は入館者数のみ統計として示していますが分かりにくかった部分もあるかと思いません。

議長 第1回の協議会にて配布され、前年度の事業について入館者数や実施した事業の話もありました。

宮瀧委員 やはり議会の質問でも入館者数に偏った質問があると思いますが、今は行政のサービスはウェブ上での情報発信、学校教育との連携など相互交流が大事になります。様々なものを活動の指標としていくのが良いと思います。

議長 来年度の第1回の協議会でまたレファレンスも含めて報告してください。他に来年度の事業計画について意見のある方はいますか。互理委員お願いします。

互理委員 神田委員の質問に上がった動画配信に対して事務局からプライバシーのお話がありましたが、撮影時のプライバシーについてはテレビを含めて、事前に今回撮影しますと告知をすれば、映りたくない人は参加しませんし、出て恥ずかしいような講座ではないので、プライバシーの話に関しては言い訳のように聞こえます。様々なシンポジウムに出席しても、事前に撮影しますというアナウンスがありますし、昨今ではよくあることで、プライバシーについては言えばよいだけだと思います。それよりもテクニカルの問題

なのではないかと思います。

現在開催している「地図で見るさいたまの近代」ですが、歴史博物館として地図はとても大事なんだなと思いました。展示構成も含めてわかりやすくまとめられていますし、エントランスに鳥瞰図が出されていて、今回打ち出している企画展が地図なんだということが一目で分かりました。平成 24 年の特別展「絵図の世界」においては江戸時代までの資料を取り上げていたのに対して、今回は明治時代以降の地図を取り上げていたため良かったかなと思います。どの章も良かったですが、特に「未来の地図」の章はなかなか面白い切り口でした。ただ改善点としてあげたいのは、なぜ地図を作るのかということが挙げられていなかった点です。その部分は非常に大事ではないかと思います。少し話が逸れてしまいますが、岩槻郷土資料館の企画展「だるま」も、だるまとはどういった物なのか説明もなく、たくさん並べられていたので、博物館が果たすべき社会教育という観点からは足りないと思いました。エントランスの鳥瞰図もタイトルがあった方がいいと思います。さらに地図は細かいものが多いため、ルーペを設置したほうが良いと思いました。貸出用に虫メガネやルーペを置かないと細かい地図は見にくいと思います。入館者に配慮がないなと感じたのは、額に入れてある五万分一地図と二万五千分一地図の亚克力が透明でないので、全然地図が見えませんでした。すぐに対応してほしいです。また、吉田初三郎について、もう少し紹介してほしいなと思います。

議長
事務局

既に開催している企画展ですが、事務局から回答をお願いします。

まず五万分一地図と二万五千分一地図が見にくい件については把握しています。対応策としては、後ろから押して表面に地図をぴったりとくっ付けて見やすくするか、額の表面を入れ替えるかして、対応します。ルーペに関しても貸出用をいくつか準備できるようにします。吉田初三郎の紹介パネルについては、展示できるように進めますが、あるいはデジタル展示として QR コードを設置して読み込めるようにして、紹介ページに誘導できたらと考えています。

議長

会期は続きますので、対応をお願いします。来年度について他に意見のある方はいますか。

杉山委員

真福寺貝塚の展示についてです。50 周年ということで非常に大きな周年事業ですので、地元である岩槻郷土資料館でもサテライト展示を開催したほうが良いと思います。やはり地元の資料館で全く触れないというのはもったいない気がします。市立博物館と連携する形で開催されると良いかと思います。もう 1 点確認ですが、真福寺貝塚出土のみみずく土偶は東京国立博物館から実物は借りてこないのでしょうか。

議長 真福寺貝塚の展示については事務局から説明もあるようです。その説明の後の回答でもよろしいでしょうか。そうしたら次の議題である各館の特別展の内容について事務局からお願いしてもよろしいでしょうか。

事務局 杉山委員の質問にお答えするのも含めて、展示の説明をします。

議長 それでは事務局からお願いします。

事務局 来年度の秋に予定している特別展は「真福寺貝塚—国指定史跡 50 年—」というタイトルで開催しようと考えています。会期は令和 7 年 10 月 11 日土曜日から 11 月 24 日休日までの 45 日間のうち開館日数は 39 日間です。休館日は祝日と休日を月曜日と、その振替の 10 月 14 日火曜日、11 月 4 日火曜日を予定しています。岩槻区城南、真福寺にある真福寺貝塚は昭和 50 年（1975）に国指定史跡になってから 50 年を迎えます。大正 15 年（1926）に大山柏による本格的な発掘調査を始めとした調査の積み重ねにより、縄文時代後期から晩期の貝塚を伴う集落跡と低地の遺跡から構成されていることが分かりました。今回の特別展では近年の発掘調査の成果を振り返るとともに、真福寺貝塚の代名詞とも言える安行式土器とみみずく土偶を中心に展示を考えています。安行式土器は縄文時代後期から晩期にかけて関東地方に分布していた土器の型式で、最終的に 6 型式に分かれますが、その時の分類の資料として真福寺貝塚から出土した安行式土器が使われました。また、現在進められている史跡整備にも触れることで、過去から現在に至るまでの真福寺貝塚の軌跡を辿る展示をしたいと考えています。展示構成及び資料はまだ予定の段階ですが、第 1 章から第 3 章、おわりに、の 4 つの構成を考えています。第 1 章は真福寺貝塚に関する基本的な解説、第 2 章は真福寺貝塚から出土した安行式土器の展示、第 3 章はみみずく土偶そのものの解説や、分布図を示した後に真福寺貝塚ほか市内から出土したみみずく土偶と、市外出土のみみずく土偶を借用して展示しようと思っています。おわりにでは、真福寺貝塚の今ということで、現在どのようなことが進められているのか紹介します。この特別展でも一部の展示資料のデジタル展示を行う予定です。関連事業については、講座を 2～3 回、次に学芸員による展示解説を 6 回予定しています。展示解説の 1 回は手話通訳付きのものを考えています。刊行物は展示図録、ポスター、チラシです。さらに市報、ホームページ、X 等で広報を行います。

杉山委員からご質問をいただいた、東京国立博物館が所蔵している真福寺貝塚出土のみみずく土偶ですが、昨年 12 月に展示できないか打診した時、さいたま市立博物館が、東京国立博物館から資料を借りた実績が 10 年以上前のため、事前に 1 年以上かけて環境調査をしなければいけないという回答でした。

杉山委員 それは残念です。

議長 広田委員お願いします。

広田委員 先ほどのお話にもありましたが、岩槻郷土資料館でのサテライト展示を開催してほしいです。岩槻郷土資料館の事業予定では企画展示が11月下旬から1月下旬とありますが、例えば少し前倒しにすることで、関連性をもつことができると思います。以前の協議会で、街巡りをして歴史を学んで理解を深める催しは人が集まって盛り上がるというお話もあったので、そのあたりも含めて周知をすればあまり馴染みのない人にも見に来てくれるのかもしれないのかなと思いました。

事務局 岩槻郷土資料館においても市立博物館の特別展の時期に展示する資料が被らないように、兼ね合いを考えながら展示したいと考えています。

議長 岩槻郷土資料館は、今年は、みみずく土偶の企画展の反響が大きかったと聞いています。そのノウハウも引き続き参考にしながら連携ができると良いと思います。

議長 千葉委員お願いします。

千葉委員 広田委員から提案のあった街巡りの実現が難しそうであれば、貝塚マップを作ることはできますか。岩槻区は貝塚がたくさんあったような記憶があるので、歩いて行ける貝塚マップがあると楽しいと思います。また、神田委員からあったウェブの件ですが、再生回数もあって二の足を踏んでいるかもしれませんが、やり方によっては再生回数を増やせると思います。例えば学校に出張して講座するのではなく、その内容をウェブページ等で学校で閲覧してもらうようにすれば、一気に300くらい増やせると思いました。一斉に配信できることが利点だと思います。

議長 事務局いかがでしょうか。

事務局 動画配信については、まずは方法を考えていきます。街歩きは今年は特別展とは関連はないですが、親子向けの大宮の史跡巡りを開催しました。来年度は浦和版を5月に開催する予定です。コロナ以前は一般向けに街歩きのイベントを開催していました。それが途絶えていましたが、親子向けの歩く講座を復活させました。今後も充実させたいと考えています。

千葉委員 形式ばった街歩きではなく、展示に関連した気軽なもので十分だと思います。ご検討ください。

議長 事務局お願いします。

事務局 遺跡に関していえば、現地に行っても何も残っていないところが多いので、どの程度紹介できるか不明なのと、行って楽しめるかは要検討ではありますが、何らかの形で実施できればと思います。

議長 宮瀧委員お願いします。

宮瀧委員　　今の皆さんの話を聞いていて、それぞれ最もな意見だと思います。さいたま市立博物館が、全てを主催して職員が行うのではなく、時間にゆとりのある退職者や地域で歴史を学んでいるサークルの方もいるので、そういった市民のマンパワーをどんどん活用して、これからはエコミュージアムという形で進めていくのが良いと思います。茅ヶ崎市では 10 年以上前からふるさと発見茅ヶ崎まるごと博物館事業というものを、教育委員会が予算をとって運営しています。ある年は 100 日間連続で市内のどこかに行けばイベントが開催されているというものもありました。例えばバードウォッチングの団体は、相模湾で初心者の参加者も含めて案内したり、石造物を案内したりしています。土日は教育委員会の学芸員が博物館で講演をするといったような前例もあるので、全部を事務局が負担すると思わないでください。今の話だと、色々できそうな方がたくさんいるので、そういう方たちと一緒に市民の方が市民を案内するといった形もあって良いと思います。特に自然系が多いエコミュージアムですが、歴史系も含めて行っているところはたくさんあるので、少し研究するといいと思います。さいたま市にも豊富な文化財があるし市民の意識も高いので組織を作って、職員が出ずっぱりでなくても大丈夫のようにリーダーシップとしてやってみたらどうでしょうか。茅ヶ崎市教育委員会のホームページで「まるごと博物館」で検索すると出てきますし、全国から行政視察も来ています。あるいは大学との連携もあり得ます。可能性はたくさんあるし、全てを教育委員会が、博物館が、と考えずに間口を広げたらよいと思います。

小宮委員　　さいたま市が発行している「まなベル」という冊子の中に講師一覧表があります。派遣依頼すれば来てもらえるというのがありますのでそういった方たちにもお願いしながらマンパワーを補うと良いと思います。たくさんの人材があるのもったいないとも感じました。以前より提案している「シニア博物館」にもこういったマンパワーを活用してもらえたら良いかと思います。一般対象の講座がコロナ以前と比べると減ったということでしたが、広報誌を読んで参加したいなと思って詳しく読むと子ども向けや親子向けのものが多く全て対象外になってしまうので、シニア博物館と銘打って企画してもらえると私だけでなく参加したいなと思う人がいると思います。

議　　長　　新副委員長お願いします。

新副委員長　　イベントを含めた様々な情報のキーステーションとして市立博物館に聞けばレファレンスしてくれる、という形を構築できたら良いと思います。博物館で展示していなくても、開催しなくても、文化的なイベントは博物館に聞けば情報が貰えるというスタイルができると良いと思いました。

議　　長　　事務局お願いします。

事務局 　まなベルも含めたツールを活用については、今後検討していきます。
新副委員長 　お願いします。
議長 　広田委員お願いします。
広田委員 　そうなるとホームページの構築が必要になってくると思います。現行のホームページで分かりやすく発信することも大事ですしXの固定ポストで見たいリンクを羅列しておいたり、今あるツールで情報検索をしやすくすることが必要だと感じました。YouTube の運営はしていますか。

事務局 　博物館独自のチャンネルはありませんので市のチャンネルに動画を投稿しています。

広田委員 　お金と手間のかからないものを活用することがよいと思います。
議長 　少し整理して考えてください。亙理委員お願いします。
亙理委員 　真福寺貝塚と聞いてなぜ岩槻郷土資料館を活用しないのか疑問に思いました。岩槻郷土資料館は国の登録有形文化財になっていたと思いますが、訪れると、寂れていて残念な印象を受けます。特に2階の企画展を行う部屋はヒビの入ったガラスケースもありました。なぜこんなに寂れているのだろうかと思うくらい非常に残念です。もう少し予算は取れないのでしょうか。例えば企画展の時に、岩槻の目玉である岩槻城や真福寺貝塚に関連したものを開催して、ガラスケースの新調やパネルの張り替えくらいはした方がよいと思います。また、岩槻藩遷喬館に行くともいません。この状況では物が盗まれたり、放火されたりしないかと心配になります。どちらも1日20～30人ほどの入館者しかいないのであれば、1週間の中で1日～2日休館して、展示の充実を図ったり、パネルを張り替えたり、そちらに力を入れても良いのではないのでしょうか。例えば岩槻藩遷喬館を市民向けの真福寺貝塚の勉強会の会場にする方法もあるので、もう少し活用の仕方を考えてはいかがでしょうか。この真福寺貝塚の特別展の中で1番アイキャッチなのはみみずく土偶だと思います。東京国立博物館の資料が借りられないことは残念ですが、特別展のアイコンとしてみみずく土偶を使ってほしいです。例えば幼稚園児や小学生向けにみみずく土偶の絵を描いてみようというコーナー設置などがあっても面白いと思います。東京国立博物館の「はにわ展」も盛況だったようで、土偶や埴輪に関心のある人が多いのだと思いますので、子ども向けも含めた盛り上げの施策を考えてほしいです。

議長 　続けてになりますが、岩槻郷土資料館での土偶の展示でもみみずく土偶がいたかと思います。その時の反響はいかがでしたか。

事務局 　企画展の開催期間中に文化財保護課主催の真福寺貝塚の現地見学会も開催されれば、来館者が増えるのではないかと考えて、企画展の開催時期を1週間早めました。現地見学会の会場でも岩槻郷土資料館で土偶の展示を行

っていますとチラシを配布したら、現地見学会の参加者が、大勢岩槻郷土資料館に来館し、盛況でした。連携する大事さを感じました。

議長 資料数も大変多かったように思いますが、何点ほどですか。

事務局 140点です。

議長 それを今度の特別展に上手く活用してください。特にみみずく土偶は小学生も興味を示すと思います。

事務局 岩槻郷土資料館の企画展では土偶の人気投票も開催しました。1位は真福寺貝塚出土のみみずく土偶でした。

亘理委員 細かくなってしまうますが、鴻巣市から出土したみみずく土偶も写真展示をして、真福寺貝塚出土のみみずく土偶と比較する展示があっても面白いと思います。

議長 真福寺貝塚は発掘調査も行われていると思いますが、その成果も展示に反映されるのでしょうか。

事務局 文化庁主催の発掘された日本列島展に真福寺貝塚から出土したみみずく土偶が展示されましたので、それを展示できればと思っています。近年の発掘成果は第2章と第3章は遺物に偏った展示をするので、第1章か、おわりに、のどちらかで取り上げようと思います。

議長 毎年秋に現地見学会が開催されると思いますので、連携をすると盛り上がると思います。

議長 宮瀧委員お願いします。

宮瀧委員 かなり細かい内容まで話が進んでいるのでお聞きします。東京国立博物館の資料は借りられないという話でしたが、レプリカは展示する予定ですか。

事務局 展示する予定です。

宮瀧委員 あのみみずく土偶はなぜ有名かと言うと縄文時代の人が耳栓、今で言うピアスを装着している状況が明確に分かる上に、土偶の右目の上に飾り櫛を付けている表現があるからです。桶川市の後谷遺跡出土の飾り櫛が全国的にも有名で一緒に展示されたりしますが、こういった資料を展示する予定はありますか。

事務局 そこまでは詰めていません。

宮瀧委員 早く電話をした方が良いです。国指定の物で手続きも大変だとは思いますが、見栄えもしますし綺麗です。その他、埼玉県立歴史と民俗の博物館に所蔵されている寿能泥炭層遺跡の耳飾も綺麗です。せっかくなら良い資料を集めてほしいので、検討してください。

千葉委員 とても良いお話だったと思います。実物を見ることがするのが1番ですが、みみずく土偶の図解を作ってほしいです。耳飾や櫛のみみずく土偶の

隣に置くと分かりやすいと思います。多くの人は土偶と埴輪が大好きなので盛り上がると思います。限られたスペースだと思いますが、見せ方の工夫をしてください。

議長 多くの要素を含んでいて反響の大きい展示になると思います。忌憚のない意見が多く出たので、事務局もご検討ください。よろしくお願ひします。次に浦和博物館のテーマ展についてです。事務局から説明をお願いします。

事務局 浦和博物館のテーマ展は「注目！～注口土器～」ということで注ぎ口のある土器を取り上げます。会期は10月21日から12月7日までを予定しています。展示ケース4台ほどの展示となるので、展示できる資料も限られてきます。現在、浦和博物館では馬場小室山遺跡の注口土器を所蔵しているので、それを中心に、縄文時代前期から、近年発掘された注口土器も含めて展示します。これまでの研究では注口土器は液体を注ぐ道具と考えられてきましたが、最近の研究成果から祭祀の道具だったのではないかと考えられています。そういった研究成果も含めて展示をする予定です。展示資料は、馬場小室山遺跡のほか、前期の井沼方遺跡の片口土器、大古里遺跡の片口土器、また見沼区の小深作遺跡の注口土器を予定しています。関連講座は現時点では発掘調査に携わった方を招いて1回開催予定です。広報はチラシを3,000枚のほか、市報・ホームページ・X等に掲載予定です。以上です。

議長 質問や意見がある方はいますか。

坂野委員 展示タイトルは仮題となっているので、実際には変わる予定もあるかと思いますが「縄文時代」というワードをどこかに入れたほうが良いと思います。注口土器と書かれても一般の人々には分からないと思うので検討ください。

議長 他に意見のある方はいますか。

松岡委員 同じ時期に縄文時代をテーマとした展示が市立博物館と浦和博物館で開催されますが、意図したものでですか。

事務局 偶然時期とテーマが被りました。市立博物館は職員数も多くて展示の構想も多く持っていると思いますが、浦和博物館の学芸員は常勤1人と非常勤1人で企画運営をしていて直前にならないとテーマを決められないため、今回は偶然、テーマが似たものになりました。市立博物館が真福寺貝塚をやるのであれば、一緒に何かできないかなとは思っています。

議長 この時期は考古学関係に興味がある方を全員取り込むくらいの形で広報ができると思います。

小宮委員 スタンプラリーなど周遊できるイベントがあると楽しいと思います。

新副委員長 スタンプを土偶形にしたり、全部訪れると景品がもらえたりすると、楽しいと思います。

事務局 教育委員会が、毎年秋に市の生涯学習施設全体を対象にした「学びのネットワーク」というスタンプラリーを実施しています。博物館だけでなく、公民館などに来館して一定数以上の施設を訪ねると景品を貰えるという取り組みも教育委員会で行っています。市立博物館・浦和博物館の展示がちょうどその時期に当たりますので合わせていきたいと思います。

議長 他に意見のある方はいますか。

千葉委員 松岡委員の発言のとおり偶然だったのなら市立博物館と浦和博物館は独自に展示を考えているということですよ。それは少しもったいないと思います。せつかく何館もあるのなら横断的に考えるゆとりがあればいいのかなと思いました。会社でも違う部署で同じ企画をやっていて、気が付いたら足の引っ張り合いになっていることもありがちなので、そうではなくてシナジー効果を出すように横断的にできないのかと思いました。いかがでしょうか。

事務局 それぞれの館にいる学芸員の専攻や得意分野から展示を企画しているので、そういった傾向になっています。またそれぞれの収蔵資料をベースに考えているため似たような資料があれば同じテーマの展示を考えようか、ということもできるのですが、それぞれの収蔵資料も異なっているので、今まで難しかった部分もあります。それでも、考え方によっては可能かと思いますので令和8年度以降の参考にします。

議長 広田委員お願いします。

広田委員 各館の事情や得意分野を踏まえて学芸員のやりたいことをやるというのが学芸員のモチベーションの1つになると思います。シナジー効果を前提に企画することもいいですし、各館がやりたいタイミングでやることも良いと思いますが、企画をした後に横断的に何かを考えるのをルールの1つに据えても良いのかなと思いました。

亘理委員 お互いの館を行き来して情報交換をすれば事前に協力体制を作ることができると思います。なかなか忙しくて他の館の学芸員と話す機会もないかもしれませんが、同じさいたま市の博物館ですし、埼玉県立歴史と民俗の博物館も含めて色々できる気がします。

宮瀧委員 市民目線からすると、所管は違うけれど、美術館も含めて仲間に見えています。美術館も「画家の街 浦和」をテーマに動いていて、市民の関心も高まっています。さいたま市の場合は、博物館・美術館、市立・県立も同じに見えています。他の委員からも調整能力の意見がありましたが、事務局には今後の課題として捉えてほしいです。市史編纂事業や文化財保存活用地域計画もまとまりつつあります。これらも含めて連携していくことが求められますので、所管の違いを越えて、利用者目線のコーディネートをすれば利

用者も増えると思います。今からやらなければならないこともあるかと思いますが、ぜひ検討してください。

事務局 学芸員それぞれの専門性が高く、横の繋がりが持ちにくい部分もあります。ご意見のとおり横の繋がりをもてば、市民の興味関心を高められると思うので、時間はかかるかもしれませんが、協力をしていきたいと思っています。

議長 初音委員はいかがですか。

初音委員 インターネット上で、さいたま市立博物館のイベントを見た時に、嬉しく思わず電話をしてしまいました。これからも広報に力を入れてほしいです。

議長 伊藤委員はいかがでしょう。

伊藤委員 今後も博物館を校外体験学習の場として使わせていただきます。

議長 神田委員お願いします。

神田委員 議事録の確認の連絡が、随分と時間が経ってから来ることがあります。こういう話をしたのか、というケースもあります。通常の会社であれば翌日、遅くても週内に議事録はできますし、時間を空けすぎない方が、話した内容を忘れていなくて良いと思います。議事録の作成が難しいようであれば、文字起こし機能の活用をおすすめします。

議長 今日出た意見を参考にしてください。それでは、本日の議事を終了します。